令和6年度事業報告書

社会福祉法人　八代市社会福祉協議会

目　　次

令和６年度主要事業実施状況

１．事業総括	1
２．社協組織体制基盤の確立	2
３．地域福祉活動の充実強化	4
４．福祉ボランティア及び福祉教育の推進	17
５．相談支援事業の充実	21
６．障がい者福祉の推進	29
７．児童・母子・父子福祉の推進	29
８．広報活動の充実	29
９．在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）	31
１０．令和２年７月豪雨に対する取り組み	33
１１．福祉施設利用状況	35
１２．その他の事業	36
１３．校区福祉推進協議会事業報告	41

Ⅰ．事業総括

地域における生活課題の変容や社会福祉法人改革など、社協を取り巻く環境は変化し、今後ますます多様な主体が福祉分野に参入する中で、社協は民間団体として複合多様な地域のニーズに柔軟に寄り添い、社協にしか果たせない地域福祉推進機能を発揮し事業展開を行いました。

令和 6 年度は、第 4 次地域福祉計画・地域福祉活動計画の最終年度だったことから、その評価と実施状況を踏まえ、第 5 次計画（令和７年度～令和 11 年度）を多くの方々の参加・協力のもと策定することができました。

相談支援事業においては、貸付相談から生活困窮者自立相談支援事業との連携により支援を行いました。中でも、緊急的援護を必要とする方には、食料等の支援や資金の貸し付けを行うなど自立や生活の安定を図る支援を行いましたが、増加傾向になっており提供する食料等の確保が課題となっています。

また、権利擁護では既存の契約者への支援と新規相談の対応、家庭裁判所からの依頼による成年後見人等を法人として受任しました。令和 4 年度からは市民後見人養成も行っており、研修を修了された方には権利擁護事業と法人後見事業において支援員として活動していただいております。今後、年々増加している新規相談や困難ケース、成年後見人の受任等に対応するための相談支援体制の整備が課題となっております。本事業は社会福祉協議会だけの事業であるため、適正なる支援体制を図りながら利用者等に安心していただけるように支援を継続してまいります。

介護保険事業については、居宅介護支援事業（ケアプラン作成）は利用者数の増加と業務効率化を図り今年度も黒字となりました。通所介護事業は令和 5 年度と比較すると五家荘デイサービスの職員体制を整え利用者増となったことから赤字額が大きく減少していますがそれでも赤字が続いている状況となりました。また、指定管理者として適正な施設管理運営を行い利用者の福祉増進に努めました。

八代市地域支え合いセンターにおいては、令和 2 年 7 月豪雨災害から約 5 年が過ぎ、支援対象世帯も 482 世帯から 89 世帯まで減少したものの、時間経過に伴い被災者の置かれている状況にも変化があり、疾病や失業、生活困窮、家庭内の不和やひきこもり等、多様で新たな課題も発生していることから、関係機関と連携を密に相談支援を行いました。今後も切れ目のない支援を継続していきます。

そのほか、令和６年度に実施した事業は以下のとおりです。

2．社協組織体制基盤の確立

（1）理事会・評議員会の開催状況

理事会・評議員会等の審議内容等については以下の通り。

会議名	年月日	出席者数	主な議題
第1回理事会	令和6年6月10日	理事　8名 監事　2名	1．令和5年度事業報告について 2．令和5年度決算について 3．令和6年度補正予算（第1号）について 4．新理事候補者の選任について 5．新評議員候補者の推薦について 6．評議員選任・解任委員会の開催について 7．評議員会の開催について 報告1　会長(理事長)及び、常務理事(業務執行理事)の職務執行報告について 報告2　訴訟について
第1回評議員選任・解任委員会	令和6年6月12日	3名	1．評議員の選任について
第1回評議員会	令和6年6月27日	25名 監事　1名	1．令和5年度事業報告について 2．令和5年度決算について 3．令和6年度補正予算（第1号）について 4．新役員（理事）の選任について
第2回理事会 【決議の省略により開催】	令和6年12月9日	—	8．副会長の選定について 9．理事の選任（案）について 10．令和6年度補正予算（第2号）について 11．評議員会の開催について
第2回評議員会 【決議の省略により開催】	令和6年12月18日	—	5．令和6年度補正予算（第2号）について 6．理事の選任について
第3回理事会	令和7年3月17日	理事　11名 監事　2名	12．令和6年度補正予算（第3号）について 13．就業規則（事務局職員、在宅福祉事業所職員、嘱託職員、臨時職員）の一部改正について 14．事務局職員給与規程の一部改正について 15．育児・介護休業及び育児・介護短時間勤務に関する規則の一部改正について

			１６．令和７年度事業計画（案）について １７．令和７年度予算（案）について １８．役員等賠償責任保険契約の締結について １９．利益相反取引に該当する契約の締結について ２０．評議員会の開催について 報告３　会長(理事長)及び、常務理事(業務執行理事)の職務執行報告について 報告４　各支所の段階的廃止について
第3回評議員会	令和7年3月26日	25名	７．令和６年度補正予算（第３号）について ８．令和７年度事業計画（案）について ９．令和７年度予算（案）について

（２）監査の開催状況

会議名	開催期日	出席者数	内　容
監査	令和6年5月30日	2名	１．令和５年度事業報告について ２．令和５年度決算について

（3）苦情解決体制

社会福祉法人八代市社会福祉協議会苦情解決に関する規程により、年1回の定例開催において必要な助言を受けた。

会議名	開催期日	出席者数	内　容
苦情解決第三者委員会	令和7年3月5日	3名	１．令和６年度苦情等（意見・要望含む）の報告

3. 地域福祉活動の充実強化

地域において誰もが安心してくらせるまちづくりのために下記の事業を行った。

（1）小地域ネットワーク活動

高齢者等の「孤立死」や親族・地域とのかかわりが薄くなりがちな「社会的孤立」状態を防ぐため、住民の「助けあい・支えあい」意識の醸成を図り、地域の実情に沿った住民の見守り体制の構築を進めた。見守り活動を通しての気づきや地域での困りごと等についてを共有する機会として、ふれあい委員研修会や関係者による連絡会、福祉座談会を開催し、住民同士でも出来る支え合い活動について話し合った。また支援が必要なケースは関係機関へつないでいる。

区分	人数	昨年比
ふれあい委員	1,616名	36名減
見守り対象者	3,630名	9名増

区分	実施
ふれあい委員研修・連絡会	20校区
福祉座談会	１４校区

【評価・課題】

ふれあい委員のみならず、市政協力員、自治会長、民生委員児童委員など地域の関係者が寄り合い、県内における孤独死の事例や8050や引きこもりなど近年ニュース等でも頻繁に取り上げられるワードなども示しながら、地域のみんなで気に掛け合う大切さについて話し合い、見守り対象者の見直しが行われました。

高齢者の見守り活動を通じての気づきや地域での困りごと等を話し合う「福祉座談会」では見守り関係に加え、生活支援コーディネーター事業と絡めて実施し、地域における生活課題の共有、および、課題解決に向け、地域での支え合う仕組みづくりを検討する場として機能していた。

※（6）生活支援コーディネーター事業を参照

（2）地域に根ざした校区福祉推進協議会活動の支援

①校区福祉推進協議会が、校区地域福祉活動計画を踏まえそれぞれの地域特性に応じ、創意・工夫を凝らした事業展開が出来るよう、引き続き社協職員をコーディネーターとして配置し校区福祉会の支援を行なった。

②校区福祉推進協議会に対し、活動支援として活動助成金の交付を行った。（活動内容の詳細は41～43ページ参照）

③八代市校区福祉推進連絡協議会への情報提供と連絡調整機能の強化

各地域の総合的な福祉向上を図るため、また、それぞれの地域性を踏まえた自主的な活動が展開されるよう、各種研修会等を開催した。

区　分	回数	実施日	内　　容
役員会	4回	4月、7月、8月、1月	5年度事業報告・決算、6年度事業計画・予算、情報交換、役員改選、市生活支援・介護サービス推進協議会委員の推薦、各種研修会、理事会の運営、地域福祉活動計画について
監査	1回	4月	5年度事業報告・決算について
理事会	3回	4月、7月、1月	5年度事業報告・決算、6年度事業計画・予算、情報交換、役員補充、各種研修会、第4次地域福祉活動計画の評価及び第5次地域福祉活動計画の策定等について他

先進地視察研修	1回	9月	住民参加型の有償サービスについての研修（長崎県諫早市）
八代市ふれあいフェスタ	-	2月	八代市における福祉の現状等を広く市民に周知啓発し、福祉の向上に対する理解と協力を深めるために開催（会場：鏡文化センター） ●ホール　ＹＹドリームズによるオープニングアクト、福祉功労者等表彰、ひとり金婚式、音楽発表会（鏡美寿お手玉愛好会、みのり、YYドリームズ）、講演　「喜んでくださることが私の喜び」上杉 芳野 氏 (芸名 下腹でる子) ●ホール　参加施設団体による活動紹介パネル、作品展示。生活支援コーディネーター通信、サロンニュースの展示。フードドライブ ●鏡支所玄関広場　食バザー
広げよう支え合いの輪やつしろ地域のお宝発表会（共催事業）	-	3月	住み慣れたまちで皆がつながり元気に暮らせるためには、ご近所によるお互い様の支え合いや寄り合いが大切であり、それらを住民主体で実践している事例(地域のお宝)を多くの方に知ってもらう場として実施。

【評価・課題】

ふれあい委員研修会等において、地域で支え合う仕組みづくりが必要であることを学び、住民主体で取り組む意識の醸成の努めた。他人事ではなく我が事としてのお互い様の支え合いの大切さに一人でも多くの方に共感頂き、誰もが安心して暮らせる地域を目指して、引き続き進めていきたい。一過性のものではなく、一年を通じて地域住民同士がお互い様の気持ちで、ちょっとしたお困りごとを有償（低額）で支援する住民参加型有償サービスを実施している長崎県諫早市の事例を学びに訪問、熱い思いのキーパーソンを中心にお互いに協力し合いながら地域で安心して暮らし続けたいというその取り組みを聞くことができ、今後の活動の参考になった。校区単位でも住民主体の助け合いサービスを学びたいと、坂本校区福祉会では住民主体による支え合い活動について宮崎県えびの市社協へ訪問した。

（3）第5次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画（愛称：みんなのえがおハ代プラン）【令和７年度～令和11年度】

計画策定へ向けた動き

区分	日程	調査内容等	内　　容
研修	令和6年10月	包括的な支援体制の構築に向けた市町村研修会	(「ひとり」にしない支援体制の構築に向けて)複雑化・複合化した課題のある世帯等の事例検討等
	令和7年3月	令和2年7月豪雨被災地域等における包括的な支援体制構築に向けた意見交換会	「地域共生社会の実現に向けた包括的な市支援体制の構築について」「重層的支援体制整備事業の概要及びポイント等について、県内の動向等」

地域福祉に関する状況把握	令和6年7月～9月	校区福祉会役員アンケート	20校区福祉会役員(123名)に実施。校区福祉会への理解や活動上の課題・要望等を把握
	令和6年7月～9月 (計3回実施)	市民ワークショップ	各参加者の日頃の取組や、地域福祉に関して思うこと等について発表や意見交換。また「高校生など若い人たちの地域福祉との関わりを広める方策」「福祉の情報をより伝えやすく、伝わりやすくする方策」等について話し合った。(協力：10団体・個人：八代子育て支援センター連絡協議会、八代市ひとり親家庭福祉協議会、八代市第1地域包括支援センター、熊本県介護支援専門員協会八代支部、八代手をつなぐ育成会、八代地域こころの健康希望の会、八代市シルバー人材センター、地域福祉権利擁護事業生活支援員、八代圏域障がい者基幹相談支援センター、余暇よかクラブ)
	令和6年7月	短大生ヒアリング	保育士を目指す学生が参加。地域福祉に関する体験談、支え合いのために地域で出来たらよいこと。若者で取りくみたいことなどについて意見を交わした(協力：中九州短期大学)
	令和6年8月	高校生ワークショップ	高校生11名が参加。地域福祉に関する八代市の現状等について学んだあと。意見やアイデア等を引き出すワークショップを開催(協力：八代高校、八代農業高校、八代清流高校)
その他	令和6年4月～11月	校区福祉会活動評価及び次期計画へ向けての話し合い	5年間の評価を基に検討し、事業の見直しや追加を行った。
	令和6年7月～12月	社協校区福祉会担当者打合せ等	福祉施策等の動向、地域福祉活動計画等に係る勉強会。社協事業全般の評価・検討
	通年（随時）	策定合同事務局(市健康福祉政策課・社協地域福祉課)での協議	前期計画の評価をもとに、全国的な福祉施策の動向、市民アンケート、ワークショップ等を踏まえた5次計画の素案の協議、関係機関との調整など
	令和7年3月	広げよう支え合いの輪やつしろ地域のお宝発表会	再掲：第5次八代市地域福祉計画・八代市地域福祉活動計画策定関連事業

計画の検討	令和6年7月、10月、12月、令和7年2月	策定・評価委員会の開催	関係団体代表や有識者による計画検討
	令和7年1月	パブリックコメント	ホームページでの意見募集(市HPにより周知)
策定	令和7年3月	-	-

【評価・課題】

令和５年度に実施した市民３０００人アンケートを皮切りに、６年度は各校区福祉推進協議会の総会・研修会等において、「地域福祉活動計画や、そこに位置づけられた校区活動計画に基づいて日々の地域活動が行われていること。」や、そもそも社会福祉法に「地域住民は地域福祉の推進に努めなければならない。」と謳われているとことなど法の根拠なども含めてお伝えをした。その後、各校区福祉会の役員会等において、４次計画の評価と併せて５次計画へ向けての事業内容について話し合う場を設けて頂いた。特に校区福祉推進協議会においては計画の柱2「身近な支え合い活動の推進」施策に直結し、今回完成した各校区活動計画をベースとしており、年度計画とも擦り合わせながら福祉会活動の充実のために引き続き支援していきたい。

また、市民ワークショップや高校生ワークショップ等では社協に対し、地域や団体、福祉関係者間の取りまとめ役やつなぎ役として、また情報発信の役割を果たして欲しいとの声もあがっており、引き続き努めていきたい。

（4）いきいきサロン事業の推進

①既存サロンでの自主開催でを促すため、校区単位での「サポーター研修会」を開催し積極的な支援を行った。

15校区実施（八代・太田郷・植柳・麦島・松高・八千把・高田・郡築・宮地・昭和・坂本・千丁・鏡・東陽・泉）

【評価・課題】

地域において自主開催が行われるためには「サロンサポーター」の存在が大変重要であり、校区福祉会と協力しながら、サロンで活用できるレクリエーションなどを学ぶ研修会を実施した。サポーター研修を実施する校区が令和5年度9校区から、令和6年度は15校区と増加した。引き続き自主開催を促すために継続していきたい。

②地域包括支援センター等の関係機関と連携し、介護予防を重視したプログラムを取り入れ下記のとおり開催された。

校区名	代陽	八代	太田郷	植柳	麦島	松高	八千把	高田	金剛	郡築	宮地
設置数	8	5	20	6	12	11	16	10	14	7	8
開催回数	102	77	302	212	166	126	247	155	174	59	89
参加者数	966	776	3,701	2,460	1,903	1,623	2,397	1,348	1,740	795	792

校区名	日奈久	昭和	二見	龍峯	坂本	千丁	鏡	東陽	泉	合　計	前年度比較増減
設置数	13	7	12	6	18	12	13	7	14	219	3
開催回数	86	47	67	61	174	114	163	45	166	2,632	101
参加者数	839	375	629	416	1,397	1,528	2,167	466	894	27,212	956

【評価・課題】

令和６年度は３つの新規サロンが立ち上がり、設置数は微増となった。またコロナ後、休止しているサロンの再開促進を行い、６サロンが再開した。新規サロン開拓、再開促進のためお試しサロンを４サロン実施し、内３サロンは新規、再開に繋がっている。コロナ以前に約40,000人だった参加者数は、令和2～3年度はコロナにより10,000人まで減少、令和4年度は20,000人台、令和５年度は26,000人台、令和６年度は27,000人台と回復傾向にある。引き続き、サロンの新規開拓、再開へ向けた支援が必要。サポーターの高齢化等もあり、次世代の担い手がなかなか見つからなくやむなく休止中のサロンもある。サポーターの負担軽減に加え、担い手の発掘が必要である。サロンの新しいアクティビティとしてUDe-sports導入を市と検討中であるため、既存のサロンだけでなく、若い世代を呼び込むきっかけ作りになればと考えている。

③いきいきサロンの内容充実並びに活性化を図るため、プログラムボランティアの養成講座等を開催し現状理解と指導力を高めた。

事　業　名	実施日(予定日)	参加者数	内　　容
（第１回）いきいきサロンレクリエーション講習会～初級編～	9月20日	53名	地域のサロン活動や交流事業等で役立つレクリエーションの指導技術を学び、サロン活動の活性化につなげる。
（第２回）いきいきサロンレクリエーション講習会	2月21日	51名	

【評価・課題】

いきいきサロンを支えているボランティアの皆さんと、マンネリを防ぐため新しいレクリエーションを一緒に学び日々の活動に活かして貰った。

④各サロン間の交流を深め、いきいきサロンの活性化を図るためにサロン大会を開催した。

事　業　名	実施日(予定日)	参加者数	内　　容
八代市いきいきサロン大会	11月15日	350名	・サロン活動功労者表彰　・講演 ・サロン発表

【評価・課題】

令和６年度は開催20回記念大会として、元KKTアナウンサー本橋馨氏に講演を依頼し、ボールペンを来場者記念品としてプレゼントする企画を行った。太田郷校区サロンによるオープニングアトラクション、本橋馨氏の紙芝居や爆笑トーク、有佐駅前サロンの演技発表に加え、抽選会でも本橋馨氏に会場を盛り上げて頂いた。コロナ前の開催では約400名程度の参加があっていたが高齢化の影響もあって減少傾向となっている。令和６年度は前年度比３０名程度増加した。

⑤サロンバス廃車後、地域の声を受けサロンの移動を支援するため「いきいきサロン交流支援事業」が始まった。

使用状況		〈主な行き先〉
利用回数	23回	遥拝神社・ふれあいセンター泉・東陽交流センターせせらぎ・妙見宮・くまもんポート・春光寺・八代宮・坂本温泉元湯・坂本温泉クレオン・桜十字ホールやつしろ・八千把コミセン等
延利用者数	370名	

【評価・課題】

レンタカーを借上げる形で年度途中から（１０月～)らの運用となったものの紅葉や花見を楽しもうと申し込みが集中した時期もあり結果23回の利用があった。令和7年度も引き続き実施されるが、同じペースで利用された場合、予算の都合で年度末にかけての利用ができない可能性がある。

⑥やつしろふれあい交流センターひなたぼっこを利用してサロン活動の活性化を図った。

開所日数　149日　　利用者数1,683人	
＜利用内容＞	・作り物（和布のコサージュ、カルトナージュのキーホルダー、新聞紙のコサージュ、植木鉢の風鈴、秋の壁飾り（お月見）、和柄ループのお花、松ぼっくりのクリスマスツリーと紙のツリー、ミニ門松、ハーバリュウムボールペン）
	・レクダンス、健康マージャン、フラダンス、サロン大会の練習、各種会議、にじのふくろ、にじのふくろプラス、ボランティアサークル（はなみずき）、ひなたdeカフェ

開所日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8	8	10	15	15	15	13	11	15	14	13	12	149

利用者数内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
サロン	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7	1,690
イベント	47	44	40	55	54	64	60	71	79	78	76	63	731	
その他	45	47	53	145	120	82	71	59	77	102	75	76	952	

【評価・課題】

本町1丁目の地域支え合いセンターの一部を借りて開催。利用者も増えてきている。今年も商店街のひな祭りイベント「やつしろのお雛祭り」での作り物の参加。講師は、ひなたぼっこの作り物を依頼しているボランティア団体のひなたぼっこプラスの会にお願いした。作り物も、サロンのプログラムの一つとして簡単にできるものを心がけて、サロンからの参加者も少しずつではあるが増えつつある。健康マージャンも人数が増え、駐車場に苦慮しているところである。集える場所の定着化が進んでいるが、地域支え合いセンターの場所を借りての開催なので今後支え合いセンターが閉じるとなると開催場所が課題となる。

（5）生活支援コーディネーター事業（八代市委託事業）

生活支援・介護予防に関する情報取集や地域課題の検討のための事業を下記のとおり行なった。

①地域資源及び地域ニーズの把握

●社会資源の把握

・八代市地域資源一覧表の情報更新作業調査を実施。新規登録として12件のサービス、計79サービスの登録。　※「居場所・交流」が増加した。

・八代市地域資源一覧表の配布（地域協議会長、市婦人会理事、市老連理事、民児協、校区福祉会会長、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、市高齢者支援課、生活衛生組合活性化塾、八代市地域支え合いセンター相談員など　725冊）

※　社協ＨＰにも掲載しより多くの方に見て頂けるようになった。配付後、関係機関から移動販売、乗り合いﾀｸｼｰ、家事援助、集まる場所、配食、配達などについて問合せも多々あり調整した。

●社会資源の維持・利用調整・周知啓発

・継続事業として乗合タクシーの試乗会を実施（泉１回、鏡７回（内実証実験６回、坂本１回）

・八代市（八代市地域公共交通会議）が実施した、鏡町で運行している予約制乗合タクシー「どんかっちょ」において、AI予約・配車システムを活用した実証実験へ参画。「午後の便を増やして欲しい」という声から期間中増便されたが利用がなかったものの、認知度は上がってきている。

・泉校区で実施した座談会にて「今後のために乗合タクシーの利用方法を勉強しておきたい」という地域の声から、校区で２回目となる予約制乗合タクシー試乗会を実施した。

・近くに商店がなく公共交通機関も限られ、高齢者が多い中山間地を中心に、移動販売業者を地域に繋いできたが、販売業者も採算ぎりぎりのところで実施している現状が伺えた。万一移動販売が撤退となれば地域においては日常生活に大きな支障をきたすため、継続可能のためにできることを関係機関と一緒に今後も検討していく。

・「八代市買い物支援事業者原油価格高騰対策支援事業」について市地域政策課と移動販売業者を含めた意見交換会を実施。

●生活支援ニーズ調査

・地域の集まり等に度々顔を出して情報を発信してきたことで生活支援コーディネーターの役割が理解され、地域住民から地域の宝や困りごとなどの情報が寄せられるようになっている。地域住民との話の中で投げかけられた質問へ丁寧に対応してきたことから、困りごとや相談が多く寄せられるようになり、地域の生活課題を把握することにもつながった。令和6年度は84件(R7.3.31現在)相談があり、地域住民や関係機関への調整等に努めた。

・座談会で『10年後の自分が困ること』を話し合ったことで、“町内にどのような困りごとがあるか”把握するために75歳以上の独居の方にアンケート調査を実施。170件の回答があり、ほとんどの方が買い物や食事、掃除などは自分でしているという回答が多かった。現在、困っている事は『特にない』が多いが『窓ふき』『換気扇の掃除』の回答もあった。買い物は自分自身で行っているが購入したものを自宅まで持ち帰るなど、買い物への困りごとは少なからずあった。困りごとのサポートは『家族にして欲しい』が多く、次いで『必要ない』『友人・知人』であった。有償での困りごとサポートに関しては『100円～500円なら頼む』もしくは『有料なら頼まない』との回答だった。アンケートを通して、今は困っていなくても今後に不安がる方がいる事が分かった。築添町では、乗合タクシーが通っているが「停留所が遠い」や「予約がめんどくさい」などの理由で利用者が少なく自家用車を活用した取組みが検討されている。今後必要に応じて支援していきたい。今回のアンケート作成、集計、分析を行い八代校区ではお互いの家を行き来する方もいらっしゃり、少ない回答であったが、買い物や食事の準備を『ご近所の方』にお願いしている方もおり、お互い支え合っている町内がある事も把握できた。

・町内単位で行われる高齢者一人暮らし交流会等に出席し情報収集を行なった。相談された困りごとは、関係機関と連携し解決に取り組んだ。

②福祉座談会の開催、住民参加型生活支援(支え合い)の推進について

・座談会に限らず地域の会合等に出席し情報収集に努め、また、すでに日常的に住民同士で生活支援をしているケース等の周知を行った。

・既にある互助の取組については、その意義を再確認する機会をもち、住民の意欲を高めさらなる取組の発展につなげた。また、取組のない地域には先進事例や大切さを伝え、互助の取組を始める気運を醸成している。

・サービスBに関する勉強会を、行政担当課と実施。

③ネットワーク構築

・各校区福祉会の会議への出席、市主催の元気支援会議、地域ケア会議、地域包括支援センター主催の地域ケア会議等へ参加するなど、各関係機関との情報交換の場を持った。

・地域資源の1つである「いきいきサロン」へも積極的に参加、地域住民との接点も増え、そこでニーズキャッチもできた。

・第２包括支援センター主催のやまびこネットワーク会議に参加し、地域の民生委員や施設のケアマネ等との交流を通して意見交換ができた。

・第６包括支援センターを中心に各関係機関と坂本町における新たな生活資源の開発会議を開催。ヤマト運輸や生協くまもと等とともに買い物支援に係る取り組みができないか協議を行った。

・買い物弱者に対する意見交換会を市地域政策課、市高齢者支援課、SC３者で定期的に実施。

④職員の配置

生活支援コーディネーター：4名配置(第1層コーディネーター1名、第2層コーディネーター3名)

⑤周知・啓発活動

・生活支援コーディネーター通信の発行【728ヶ所　11,763枚配布】

・「地域の宝」である地域の様々な寄り合い、井戸端会議等へ訪問した様子を記したを通信を作成。また、それらを他町内・他校区の会合等で紹介、寄り合い等の意味やその素晴らしさ等を啓発した。

・「地域の宝」をさらに多くの方に知ってもらうために通信のパネル展示を実施した。

①松高校区　「寝たきり高齢者にならないために」
②県社協主催「市町村社協新任職員研修会」
③二見校区「みんなでわいわい　みんなの食堂」
④八代市ふれあいフェスタ
⑤いきいきサロンレクリエーション講習会
⑥八代市役所1階

・生活支援コーディネーター通信【概要版】を作成し地域や関係機関に配布した。

・日常生活の中で当たり前だと思っている住民同士の営みが、気にかけ合う関係を育み、支え合う基盤につながっており、地域のお宝をみんなでお宝を発見し合ったり、発表して認め合うことで、地域づくりの気運を高める取組みとして「広げよう支え合いの輪！やつしろ地域のお宝発表会」を開催。基調講演に、ご近所福祉クリエイションの酒井保氏を招き、事例発表では東陽校区栗林地区、日奈久校区山下町、八代校区中塩屋町、北塩屋町が発表。

・球磨村主催「球磨村支え合いの地域づくり研修会」にて、八代市生活支援コーディネーター事業の事例発表を実施。他市町村との交流も実施することができた。

⑥八代市生活支援・介護予防サービス推進会議（第１層協議会）の開催状況

第１層協議会へ出席し事業の進め方の検討を行なった。

開催期日	会場	協議内容	参加人数
令和6年7月4日（木）	市役所	（１）八代市における生活支援体制整備事業について （２）令和6年度生活支援コーディネーター事業計画について	19名
令和7年３月18日（火）	市役所	（１）令和6年度の活動報告について （２）令和7年度の事業の方向性について	19名

⑦地域住民による支え合い活動の取組み

・住民同士による支え合いにより一層活発になるための「きっかけづくり」を目的に実施。

・日奈久校区福祉会における「お互いさまの日」活動。

・各町内単位で実情に応じて実施した。

【評価・課題】

近所付き合いの中でちょっとした手伝いをしている人がいるということは座談会等で把握しているが、活動の範囲を広げて生活支援の担い手や人材の発掘には至っていない。高齢になっても仕事をしていたり、地域での役割や趣味の活動などがあり地域活動への参加が難しい現状も見受けられる。日常的に住民同士での支え合いの形がある地域では、有償ボランティアをすすめても受け入れがむずかしい状況。地域によっては、これまでの先進地研修（有償ボランティア）を通して町内などの小さい単位から始めていきたいという地域もあるため、関係機関との連携も含め生活支援コーディネーターとしても地域の「やってみたい」を支援していきたい。

福祉座談会をキッカケにできた鏡町における乗り合いタクシー(どんかっちょ)。せっかく新しくできた地域資源であり、無くならないためにはある程度の利用が必要であることから、利用促進のため予約方法や乗車方法についての試乗会を実施。移動販売事業者の連絡調整、地域の宝をより多くの方に言い触らすために作成した生活支援コーディネーター通信の取り組みなど、八代市社協の取り組みについて、熊本県認知症対策課地域ケア対策室から視察したいとの申し出があり、市高齢者支援課と対応した。

八代校区では７５才以上独居高齢者を対象としたお困りごとアンケート調査を実施し、生活上のお困りごとや有償ボランティアのニーズについて把握することができた。

（6）小規模法人のネットワーク化による協働推進事業（共同募金配分金事業）

全ての社会福祉法人は「地域における公益的な取組み」の実施が責務化されたが、小規模法人においては経営基盤や職員体制により、単独での実施が困難な状況にもあるため、小規模法人を含め様々な機関が連携し、地域貢献の取り組みが促進されるよう、この事業を通じて各法人と取り組みに向けた連携を図るもの。

①複数法人連携による地域貢献のための協働事業（4園〔4法人〕が協力）

・各法人で法人内及び地域住民への周知協力を依頼し、アルミ缶・新聞紙を収集し、社協へ物品寄付とする。その後集まった資源を業者へ持ち込み現金化する。(6年度実績　193,875円)

【協力：パール保育園、昭和保育園、あげまち保育園、わかあゆ保育園、八代市社会福祉協議会】

・現金化したのちに社協事業の小口資金貸付事業、緊急食料品等支援事業の支援の原資とする。

※支援の実績については「生活困窮者自立相談支援事業」報告を参照

②法人間連携プラットフォーム　③福祉人材確保・定着のための取り組み→未実施

【評価・課題】

地域貢献の一環としての協働事業については4園よりご協力いただいた。現金化し、生活にお困りの方への緊急小口資金等の原資として活用させていただいた。

（7）男性の地域デビューを推進する事業（共同募金配分金事業）

地域活動においては、大勢の女性が元気に活動しており、どちらかと言えば男性の地域参加は少ない傾向にある。定年後、生活の大半を家庭で過ごすようになってから地域活動（町内活動やボランティア活動、気の合う仲間との地域貢献など）へ参加することを「地域デビュー」と表現することがあり、その「男性の地域デビュー」を推進し、生きがいをもって様々な活動を通して元気に楽しく過ごす男性のグループ作りを支援するもの。

	開催期日	会場	協議内容	参加人数
1	令和6年4月18日	畑（有佐）	畑の草取り	7名
2	令和6年4月21日	松高コミセン	楽土祭（子ども食堂のイベント）に参加し、メンバー自作のクレーンゲームや昔遊びで交流	4名
3	令和6年5月10日	畑（有佐）他	玉ねぎの収穫、助成金の申請打合せ	6名
4	令和6年5月15日	畑（有佐）	じゃがいも堀り（収穫したじゃがいもは、八代市内の子ども食堂へ寄付）	9名
5	令和6年5月26日	畑（有佐）・支え合いセンター	子ども食堂の子どもと、じゃがいもの収穫をしその後マスコット作成のワークショップで交流	19名

6	令和6年6月29日	畑（有佐）	草取り	11名
7	令和6年7月20日	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	52名
8	令和6年7月26日	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	43名
9	令和6年8月1日	坂本町	竹灯籠づくりのワークショップへ参加	5名
10	令和6年8月3日	支え合いセンター	夜市においてむかしのあそび広場を開催	54名
11	令和6年8月8日、9日、13日、14日	支え合いセンター	竹灯籠づくり	10名
12	令和6年8月17日	松高コミセン	楽土祭（子ども食堂のイベント）に参加し、メンバー自作のクレーンゲームや昔遊びで交流	11名
13	令和6年9月4日	橋永農園（東陽）	栗拾い	9名
14	令和6年9月9日	支え合いセンター	会議（今後の活動、助成金について）	11名
15	令和6年9月26日	畑（有佐）	ピーナッツ・さつま芋の収穫	10名
16	令和6年10月21日	松橋ボール	ボーリングで会員間の交流をはかる。	9名
17	令和6年11月12日	畑（有佐）	里芋の収穫	10名
18	令和6年12月2日	八代市内	忘年会（余暇よかクラブウーマンズと合同で開催）グループ相互の交流をはかる	8名
19	令和6年12月17日	支え合いセンター	打合せ（楽土祭）	6名
20	令和6年12月21日	松高コミセン	楽土祭（子ども食堂のイベント）に参加し、メンバー自作のクレーンゲームや昔遊びで交流	9名
21	令和7年1月25日	八千把コミセン	やちわっこひろば（子ども食堂）にて餅つき	10名
22	令和7年2月20日	畑（有佐）	じゃがいもの植え付け	12名
23	令和7年3月12日	支え合いセンター	総会（次期役員、次年度の活動内容などについて話し合った。）	13名

【評価・課題】

畑の作業を中心に、子ども食堂へワークショップや手作りのクレーンゲームで子どもたちと交流を図った。八代商店街の夜市で、「むかしのあそびひろば」を開催し、たくさんの子どもたちと竹とんぼやお手玉、けん玉などをして交流した。また、大同生命の助成金をいただき、ポロシャツとのぼりをつくった。できる時にできる事を、楽しく活動している。役員をきめ、少しずつ自主活動に繋がってきている。

（8）こども食堂・地域食堂連絡会への参加等

市内に6ヶ所ある「こども食堂」の連絡会議（隔月開催、八代市企画政策課・こども未来課・社会福祉協議会参加）に参加している。また、社協にお寄せいただく食料品等（米、野菜、お菓子、文房具）を不定期に提供している。（53回配付）社協としては生活困窮者の自立相談支援事業も実施しており、「もし気にかかる方がいらっしゃったら相談先として社協をご紹介ください」と代表者の方に伝えている状況。積極的アプローチはなくとも、間接的に潜在的ニーズをキャッチする目的で関わっている。

（９）女性の地域活動を推進する事業【新規】

八代市では、現在男性の地域参加を推進するグループ（余暇よかクラブ）がありますが、女性の中にはまだ元気で動けるので地域貢献やボランティアの活動をしたいけど何をしたらいいのかわからないという声から、地域貢献やボランティアをしながら楽しく仲間づくりをしていくこと支援するもの。

	開催期日	会場	協議内容	参加人数
1	令和6年9月25日	支え合いセンター	発足会	5名
2	令和6年10月11日	支え合いセンター	サツマイモ袋詰め	5名
3	令和6年11月11日	支え合いセンター	今後の活動について	9名
4	令和6年11月18日	畑（かんね）	除草作業、畝づくり等	5名
5	令和6年11月19日	畑（かんね）	玉ねぎ植え	4名
6	令和6年11月21日	畑（かんね）	種・苗植え	6名
7	令和6年12月2日	八代市内	忘年会（余暇よかクラブと合同で開催）グループ相互の交流をはかる	7名
8	令和6年12月3日	支え合いセンター	お手玉作り	4名
9	令和6年12月9日	畑（かんね）	間引き	5名
10	令和6年12月21日	松高コミセン	楽土祭（子ども食堂のイベント）に参加し、メンバー自作のクレーンゲームや昔遊びで交流	6名
11	令和7年1月14日	支え合いセンター	エプロン作り	7名
12	令和7年1月15日	支え合いセンター	エプロン作り	7名
13	令和7年1月21日	支え合いセンター	打合せ、エプロン作り	7名
14	令和7年1月25日	八千把コミセン	やちわっこひろば（子ども食堂）にて餅つき	6名
15	令和7年2月17日	支え合いセンター	定例会・軽トラ市の値付け	7名
16	令和7年2月23日	通町	軽トラ市に出店	5名
17	令和7年2月25日	畑（かんね）	サニーレタス収穫・草取り	6名
18	令和7年3月25日	畑（かんね）	草取り	6名

【評価・課題】

男性同様、畑の作業を中心に、子ども食堂へワークショップやお手玉などで子どもたちと交流を図った。軽トラ市では各家庭に眠っているものを販売し、自分たちで活動資金作りをしている。各月にあつまり、その時々に活動内容や畑に植えるものの相談など楽しく活動している。
近いうちに自主活動に移行していけるグループである。

4. 福祉ボランティア及び福祉教育の推進

ボランティア活動の振興を図るために下記の事業を行った。

（1）福祉ボランティア事業

事業名	会場	実施日	参加人数	内容
福祉体験教育	各小・中学校他	通年	962名	「ふだんの　くらしの　しあわせ」について地域の住民と一緒に考え、学びを深め、共に育む「福祉教育（共育）」を実施した。各小・中学校での福祉体験（車いす体験、アイマスク体験、点字ブロック体験、高齢者疑似体験等）に加え、令和２年７月豪雨の経験から災害ボランティアや防災に関する講義、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する講義（新）も取り入れた。

【評価・課題】

地域一丸で福祉教育を実施していくうえで、地域の中からの「福祉教育サポーター」の養成にも取り組む必要がある。社協のみで完結するのではなく、校区福祉会や単位民児協、地域包括支援センター等と多機関連携で実施していきたい。また、福祉教育を地域社会に定着させ、創造的な実践の実施・推進に取り組むため、全国社会福祉協議会主催の「福祉教育推進員」を養成する研修を職員2名が修了。今後も、社協職員だからこその視点で福祉教育実践を広げるリーダーとして必要な知識を習得し、福祉教育の実践力を高めるため修了者を増やしていく必要がある。

（2）災害ボランティアセンター関係事業

事業名	会場	実施日	参加人数	内容
災害ボランティア研修会（八代市ボランティア連絡協議会共催）	市社協	9月29日	40名	頻発する自然災害に備え災害や災害ボランティアの学びを深めるため研修会を八代市ボランティア連絡協議会との共催にて実施。第１部では、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク樋口様より中間支援組織の研修、第2部では、社協より能登半島地震職員派遣の報告や被災者支援についての研修を担当。参加者はボランティア関係者はじめ、民生委員児童委員や地域婦人会からも参加があった。
令和６年能登半島地震・豪雨被災地職員派遣	珠洲市災害ボランティアセンター	①6月15日～21日 ②10月15日～21日	2名	令和６年能登半島地震・豪雨の被災地である珠洲市災害ボランティアセンターへ九州ブロック派遣により職員２名を派遣。１クール７日間で珠洲市災害VCの業務に従事。
八代ブロック災害ボランティアセンター運営研修会	市社協	12月7日	25名	近年、自然災害の頻発化・激甚化・広域化・複合化に伴い、災害ボランティアセンターの運営においてもICTのシステムが導入されており、災害ボランティアセンター運営において実際に活用されている「kintone」について、実際に触れながら実践的に学ぶことを目的とし開催。 講師：熊本県社会福祉協議会　熊本県ボランティアセンター主任　池尻憲二様

【評価・課題】
令和２年７月豪雨より４年が経ち、災害ボランティアセンター設置運営マニュアルや設置運営訓練を行う時期と感じる。また、地域協働型災害VCの必要性も謳われており、地域住民の担い手も養成していきたい。

（３）ボランティアセンター運営

①センター登録ボランティア数

項目	登録数	登録期間	世代別
個人	42名（男：10、女：32） ※新規登録者：2名	1年間	10代： 0名　20代： 0名　30代： 0名　40代：1名　50代：3名 60代：9名　70代：13名　80代：16名　90代：0名
団体	36団体 ※新規登録団体：1団体		

②ボランティア派遣

項目	件数	協力団体	内容
点字	6件	点訳ボランティア虹の会	八代市・氷川町内の小中学校へゲストティーチャーとしてボランティア団体を調整。主に授業の総合学習内で実施。
講話	4件	個人・団体・社協	災害ボランティアや防災について小学校や中学校への派遣

③福祉機器貸出

貸出用物品	件数
点字器	6件
高齢者疑似体験セット	0件
車いす	18件

④ボランティア保険

種類	加入人数／件数	内容
ボランティア活動保険の加入	2,701名/135件	年間を通してボランティア活動における傷害・賠償補償
ボランティア行事用保険の加入	7,867名/85件	行事、いきいきサロン開催ごとに様々な事故に対する障害・賠償補償
福祉サービス総合補償の加入	14名/1件	在宅福祉・地域福祉サービスにおける様々な事故に対す傷害・賠償補償
賠償・傷害保険金の請求	3件	活動中の物損、活動中の転倒ケガ、会議に向かう途中での交通事故

【評価・課題】
ボランティアセンター登録者に安心して活動ができるようボランティア活動保険の加入を推進した。

⑤ボランティア出前講座等

依頼者	会場	実施日	参加人数	内容
高田小学校（4年生）	集会室、教室廊下、階段	7月10日、9月9日	62名	点字体験、車いす、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験
日奈久小学校（4.5年生）	体育館	6月13日	16名	車いす体験、高齢者疑似体験、点字ブロック体験、バリアフリー・ユニバーサルデザイン
千丁小学校（4年生）	体育館	6月4日・7日・11日	77名	高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック
郡築小学校（4年生）	体育館	6月12日・25日	32名	車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験
農業高校（2年生）	実習室	7月3日	27名	点字体験学習
太田郷小学校（4年生）	教室、体育館	6月28日、7月2日・4日	127名	車いす体験、アイマスク体験、点字ブロック体験
二見小学校（3.4年生）	教室、体育館	9月26日、10月17日・24日、11月7日	8名	車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験、バリアフリー・ユニバーサルデザイン
松高小学校（4年生）	体育館	9月17日・20日、10月8日・10日、11月12日・14日	119名	車いす体験、アイマスク体験、点字ブロック体験
麦島小学校（4年生）	教室	8月29日・30日	71名	車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験、バリアフリー・ユニバーサルデザイン
文政小学校（4年生）	教室	9月25日、2月27日、3月6日	35名	点字体験、車いす体験、高齢者疑似体験、防災教育
文政小学校（5年生）	教室、グラウンド	2月20日	36名	防災教育

日奈久中学校（3年生）	体育館	9月13日	8名	車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験
鏡中学校（3年生）	体育館	10月4日	124名	「高齢者との接し方やマナー等について」講話
八代小学校（4年生）	体育館	9月27日、10月1日	48名	車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験、防災教育
代陽小学校（4年生）	教室	10月24日・30日	68名	点字体験、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字ブロック体験
有佐小学校（5年生）	教室	10月16日	20名	バリアフリー・ユニバーサルデザイン
有佐小学校（3.4年生）	体育館	12月12日	40名	車いす体験、アイマスク体験、点字ブロック体験

【評価・課題】

今年度も福祉体験の周知等を行った結果、多数の依頼をいただいた。新たな取り組みとしては、バリアフリーとユニバーサルデザインについてのメニューを追加しました。八代五中では本年度も授業参観の機会に福祉体験教育を行い、保護者の方々とも学びを深めた。今後は学校のみならず企業等の世代を跨いだ福祉教育の展開と地域からの福祉教育サポーターの養成も行っていきたい。

5. 相談支援事業の充実

生活基盤の安定化を支援し、住み慣れたまちで安心して生活がおくれるように下記の事業を実施した。

（1）生活福祉資金貸付事業

①令和6年度相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	21	24	28	28	17	30	31	32	33	24	21	37	326

②令和6年度　資金種別ごと貸付決定当初における貸付件数及び貸付金額

資金種別		件数（件）	貸付金額（円）※元金のみ
総合支援資金	生活支援費	0	0
	住宅入居費	0	0
	一時生活再建費	0	0
福祉資金	福祉費（生業・購入等）	1	1,990,000
	緊急小口資金	0	0
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	4	1,213,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0
	要援護者世帯向け不動産担保型生活資金	0	0
臨時特例つなぎ資金		0	0
合計		5	3,203,000

資金種別		件数（件）	貸付金額（円）※元金のみ
令和2年7月豪雨災害特例貸付	緊急小口資金	0	0
合計		0	0

③令和6年度末　貸付件数及び貸付金額（全体）

資金種別		件数（件）	貸付金額（円）※元金のみ
総合支援資金	生活支援費	15	7,190,500
	住宅入居費	4	484,801
	一時生活再建費	5	390,362
離職者支援資金	離職者支援費（生活費）	2	2,000,000
福祉資金	福祉費（生業・購入等）	10	12,607,360
	緊急小口資金	8	708,000
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	51	26,399,350
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0
	要援護者世帯向け不動産担保型生活資金	0	0
臨時特例つなぎ資金		2	190,000
合計		97	49,970,373

【評価・課題】

貸付相談から相談者の抱える問題に対応するため、生活困窮者自立相談支援事業との連携により支援した。また、貸付対象にならなかった相談者に対しても、関係機関を紹介するなど助言、支援に努めた。新型コロナ特例貸付については、償還が始まっている。償還が難しい方に対する相談支援を行い、償還免除や支払猶予等に係る手続きについての支援を行っている。また、滞納世帯に対して督促状の送付や面談、電話による償還指導を行い、償還促進に努めた。償還が困難な借受世帯に対しては、借受世帯の状況に応じて各支援機関との連携のもと支援を行っている。今年度償還指導延件数223件であり、滞納世帯が償還指導により償還ができるようになった件数は23件である。 課題としては、貸付を希望されても、返済の見込みが立たない、申請ができそうであっても時間がかかる等で、貸付対象にならない方への対応に困ることである。

（２）特例貸付償還管理相談支援事業　※相談支援業務のみ受託（償還支援業務は未受託）

特例貸付の借受人から相談があった場合に生活状況及び生活課題等に対するアセスメントを実施し、制度、支援策の利用支援を行う。関係機関との連携による必要な支援へのつなぎの上、必要に応じて食料や日用品の提供等の支援を行う。

令和6年度相談支援件数

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
件数	5	9	7	12	27	25	9	5	20	3	7	7	136

【評価・課題】

熊本県社協からの委託事業であり、当年度末の借受人１件あたり1,000円の事務費であるが、償還免除や完済により、借受人が減少するので、財源面において、事業の継続が不安定である。相談者に対しては、自立相談支援機関へのつなぎにより、支援ができている。

（３）地域福祉権利擁護事業（法人成年後見事業含）

①利用件数の推移（令和2年度～令和6年度）

	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
契約件数	94	90	93	94	91
新規契約件数	19	19	13	22	22
解約件数	23	16	12	25	15
現契約件数	90	93	94	91	98
相談件数	2,243	2,642	4,554	4,913	3,809

※相談件数には利用者援助に関する相談も含む。

②令和6年度末契約締結件数内訳

対象別	認知症高齢者	精神障がい者	知的障がい者	その他	合　計
件　数	29	36	32	0	97

区　分	課　税	非課税	生活保護受給者	合　計
件　数	4	64	29	97

③令和6年度生活支援員及び職員による訪問援助回数

	人　数	回　数	一人当たり年平均回数
生活支援員(職員含む)	16	2,075	129.7

④生活支援員を対象とした研修会への参加及び実施

1	県社協主催による研修会への参加 令和6年度熊本県地域福祉権利擁護事業生活支援員等研修会 日　時：令和6年7月26日（金）10時25分～15時30分 場　所：熊本県総合福祉センター5階研修ホール 参加者：生活支援員2名（職員2名） 内　容：より良い相談対応のためのコミュニケーションスキル （講師）臨床心理士　坂上由香里　氏
2	八代市社協主催による研修会の実施 令和6年度地域福祉権利擁護事業生活支援員研修会 日　時：令和6年8月24日（土）9時30分～12時00分 場　所：八代市社会福祉協議会3階会議室 参加者：生活支援員15名（職員6名含む） 内　容：（講義）“傾聴”聞き上手な支援者になるために （講師）傾聴ボランティアくまもと　岩﨑　静香　氏

【評価・課題】
ここ数年は新規相談件数が増え続けており、関係機関等へ本制度の周知が広まっていると思われます。また、特例扱いによる後見人（市長申立）が決定するまでの期間を本事業で支援し、後見人へ引き継ぎするケースも増えています。
新規相談や定期支援、支援困難ケースなどは、担当職員だけでなく複数の職員による支援体制を確保し、利用者の意思を尊重しながら支援を継続できるように努めます。また、現金や保管物件についても複数の職員によるチェックや立ち合いのもとで取り扱うよう徹底し、不正が発生しないように取り組んでまいります。今後も関係者の皆様の信頼を得られるように倫理観をもって取り組んでまいります。

（4）法人成年後見事業

①令和6年度　利用者数及び支援状況

	平成30年度～令和5年度				令和6年度				平成30年度～令和6年度			
	後見	保佐	補助	合計	後見	保佐	補助	合計	後見	保佐	補助	合計
新規受任	3	4	0	7	1	2	0	3	4	6	0	10
終了	0	2	0	2	2	0	0	2	2	2	0	4
利用者数	3	2	0	5					2	4	0	6

支援回数				
	後見	保佐	補助	合計
5年度	382	106	0	488
6年度	215	155	0	370

②令和6年度　市民後見人等への意思決定支援研修会

日時：令和7年1月23日（木）10時～12時　　参加者：職員2名

内容：「意思決定支援と代行決定」権利擁護と意思決定支援について（オンライン講話）

③令和6年度　成年後見制度利用促進研修会（オンライン開催）

日時：令和7年2月12日（水）13時30分～17時

内容：市町村長申立の実務、事例検討　　参加者：職員2名

④令和6年度　成年後見制度利用促進研修会（オンライン開催）

日時：令和7年2月20日（木）12時55分～16時10分　　参加者：職員2名

内容：行政説明、成年後見制度の活用と同制度が地域で果たす役割について他

【評価・課題】

今年度は、後見1名（熊本市から八代市へ転院により移管）・保佐2名の方を受任し、後見2名の方が亡くなられたので死後事務を行いました。現在、被後見人等6名の方は施設や病院で変わりなく落ち着いて生活されております。今後も被後見人等に対して適正な支援を図りながら、熊本家庭裁判所より新規依頼があった場合の受任体制を整備し、地域福祉権利擁護事業と一体的な支援を図っていきます。

（5）市民後見人養成研修事業

成年後見制度利用促進基本計画により、権利擁護を支える専門職後見人や法人後見、市民後見人等の確保・育成が求められています。そこで、地域住民の参加支援を得ながら地域共生社会の実現のために市民後見人養成研修（基礎研修）を実施しました。
また、今年度よりフォローアップ研修まで受講された方を対象にスキルアップ研修を実施しました。

①基礎研修【第2期生（令和6～7年度の新規受講者）

期日・内容：令和6年9月～11月（6回講座・業務同行）　成年後見制度概論、市民後見人の必要性など

場所：八代市社会福祉協議会　3階会議室

受講者：13名（修了証書を交付）

②スキルアップ研修【第1期生（令和4・5年度修了者）を対象】

日時：令和7年1月10日（金）13時30分～16時20分

場所：八代市社会福祉協議会　3階会議室

内容：税務申告制度、公証役場の役割について

受講者：9名

【評価・課題】

今年度は、第2期生【令和6年度（基礎研修）～7年度（フォローアップ研修）受講希望者】を募集し13名が受講されました。また、第1期生を対象にしたスキルアップ研修を開催し9名の方が受講されました。現在、第1期生の中から2名の方が法人後見支援員として活動されており、今後は社協との複数後見人として活動していただくように計画しております。

（6）生活困窮者自立相談支援事業（八代市委託事業）

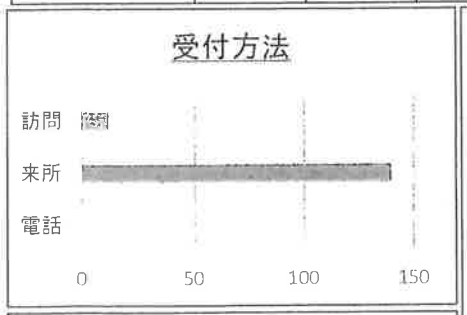
さまざまな背景により生活困窮に陥っておられる相談者に対して、各関係機関との連携のもと、支援を行った。
主任相談支援員1名（兼務）、相談支援員3名、就労支援員1名配置している。

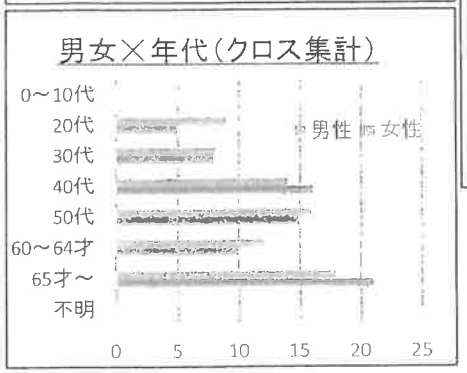
①事業周知・啓発活動

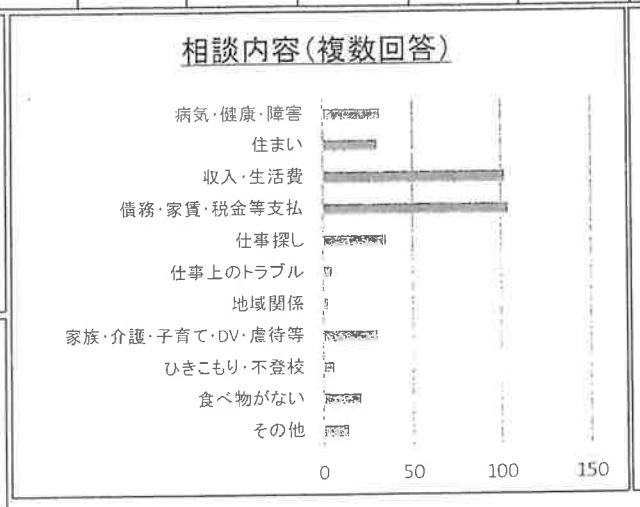
1．社協だより（全世帯配付：年3回）、社協ＨＰ・ＦＢへの掲載
2．パンフレット等の配付（行政・関係機関）
3．出張相談カレンダーを作成し民協会長会にて配付
4．会議・研修会での説明（各関係機関主催研修会等）

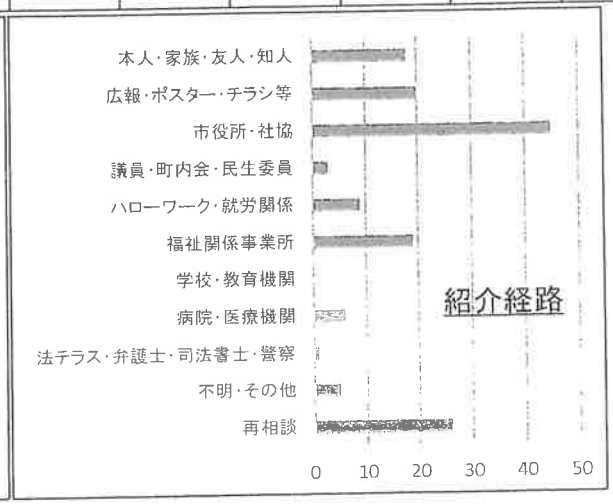
②支援実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	R7年3月末継続件数
相談件数	21	13	9	12	13	15	10	11	8	14	14	12	152	
プラン作成件数	0	8	4	3	0	4	7	0	5	3	2	6	42	
就労実現者数	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	6	9	290
就労による増収者数	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5	7	









【評価・課題】相談内容としては、収入・生活費、債務、家賃・税金等の支払いが多い状況が続いている。また、コロナ特例貸付の返済が始まってからは、再相談者数が増加している。関係機関等と連携し、情報提供や相談支援を行い、自立を目指す。課題としては就労支援について相談者のご希望と求人とのマッチングが難しいケースが多い。　また、典型的な8050問題など、家族関係の問題と思われる相談も多く、自立支援に時間がかかるケースが多い状況が続いている。

※緊急支援の実施：緊急食料等支援事業

八代市に居住する生活困窮者に対し、緊急的かつ一時的に生計維持が困難になった場合に食料等の現物を提供することにより、自立支援するとともに助け合いのできるまちづくりを推進し、地域福祉の増進を図ることを目的とし実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
提供件数（子供食堂への提供含む）	18	19	11	15	12	19	10	19	15	26	9	7	180

【評価・課題】

食料支援を受ける方が増加傾向にある。原則、3回までという規定があるが、それ以上必要な方が多い。寄付者件数は65件だった。年々、協力者が増えていたが、物価高騰の影響もあり、減少しているようである。食料等の確保については検討する必要がある

※緊急支援の実施：小口資金貸付事業

生活困窮者世帯が不測の事態により、緊急的に援護を必要とする理由が生じたとき、資金の貸付を行い、生活の安定を図ることを目的とし実施した。貸付財源として、アルミ缶・新聞紙回収益金を利用している。他、寄付金を頂いている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
貸付件数	1	2	0	0	3	1	0	2	0	1	1	2	13

貸付金額：227,000円

貸付累計金額：2,062,978円(178件)償還累計金額：974,538円　貸付累計残額：944,440円 償還不能処分累計額144,000円

【評価・課題】

ライフラインが維持できない等、緊急に資金が必要な場合に、小口貸付を行うことにより、有効な支援となった。財源確保の一手段として、小規模法人（保育園）との連携によりアルミ缶等の資源の寄付を頂くなど、継続してご協力頂いている。また、一般の寄付者の協力が得られるようになっている。課題は、返済が困難な方への対応と安定した財源の確保である。

※ひなたでカフェ

ひきこもりの悩みを周囲には相談できずに苦しまれている方が気兼ねなく語り合える場の提供。　月1回第4木曜日　午後1時30分から約2時間　八代市地域支え合いセンターにてR6年度開催回数6回　延参加人数7名

【評価・課題】参加者が少ないので隔月開催にしている。参加者が少ないので、検討の余地がある。

ひきこもりに対する支援の一つである。広報周知に力を入れ、悩みをもたれている方へ支援が届くようにしたい。

※無料職業紹介事業　　自立相談支援申込者で、就労を希望される方を対象に職業紹介・斡旋を行う。

求職登録者数：15件　就職決定者数：0件　求人登録数：1件(2人)　離職者（6ヶ月以内）1人

【評価・課題】

就職後の定着支援を行う等、自立相談支援事業と包括的な支援を行うことにより、効果的な支援を行うことができている。
課題としては、生活が逼迫し、すぐにでも就労収入を得なければ生活の維持が難しい方や障害疑いのある方、70才を超える求職者に対する求人数が少ないので、開拓する必要がある。今年度は紹介状発行の実績は無かったが、HWからの紹介につないだ。

※令和6年度熊本県生活困窮者に対する物価高騰緊急支援事業（熊本県補助事業）

物価高騰の影響により、経済的に困窮している生活困窮者に対して、食料品や生活必需品の給付、一時的な住まいの提供等の緊急・一時的な支援を行った。

事業総額：502,194円（内訳: 補助金額 500,000円 自主財源2,194円）

【評価・課題】

物価高騰対策のための支援事業であり、ライフラインの確保等のための緊急支援が効果的に行われる事業である。
時限的な補助事業であるが、本市独自事業としての継続が望まれる。財源の確保が課題である。

※赤い羽根 ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン「生活困窮者への緊急支援活動助成事業」

八代市自立相談支援センターへ相談される生活困窮者で、特に緊急的に支援が必要は方（例えば、ホームレス等）に対して命を守る緊急支援として食料品（非常食等）1週間分単位でセットにして配布した。

事業総額：505,347円（内訳：補助金額500,000円　自主財源5,347円）　　支援時期：令和6年11月～令和7年3月

食料品の量：目安約1週間分　提供実績： 89件

【評価・課題】食料品の配付をきっかけに相談支援につながった。

※携帯電話利用支援事業

生活困窮者で携帯電話等の通信手段が無く、就職活動に不利になる方で希望する方に対して、携帯電話の利用を支援し、早期の自立に向けた就労支援を目的に実施。

支援額　：初期費用1円（SIM発行手数料）、月額費用（3ヶ月分）9,762円　消費税　977円　合計10,740円／1名分

実　績　：2件

【評価・課題】携帯電話料の滞納等で新規契約が困難な方に対して、通信手段の確保は必要な支援だと思われる。

6. 障がい者福祉の推進

障がい者の自立した生活と社会参加を推進するために市民に広く団体・施設活動を周知することを目的に開催した。

事　業　名	実施日	会場	参加者数	内　容
ふれあいフェスタ	2月8日(土)	鏡文化センター	約200名	式典、福祉功労者表彰、ひとり金婚者表彰、講演会 ステージ発表、展示、食バザー

【評価・課題】

八代市における福祉の現状等を広く市民に知って頂くために障がい者施設、ボランティア団体等による音楽発表会や作品展示などを行なった。ホールで福祉功労表彰、一人金婚式、ふれあい音楽発表会、福祉講演会を行い、エントランスでは参加施設団体による活動紹介パネル、作品展示を行った。市鏡支所では食バザーを行った。今年度は鏡文化センターで開催しましたが、来年度については周知・運営方法等も検討・改善していきたい。

7. 児童・母子・父子福祉の推進

次世代を担う子供たちの健全育成の一助として、児童遊具の補修費助成(令和2年度からは遊具の撤去費も含む)を実施している。

事　業　名	件数	助成先（町内）	助成金額	内　容
児童遊具補修助成	0件	―	―	

【評価・課題】

今年度は1件の相談がありましたが対象外であったため助成した件数はありませんでした。

8. 広報活動の充実

（1）社協だよりの発行

社協の組織や活動内容について広く市民に周知を図るために、広報誌「やつしろし社協だより」を年3回発行し全世帯に配布した。

発行番号	発行日	発行部数	摘　　要
第67号	6月1日	50,000部	全世帯に配布(８ページ)　音声訳４名・点字訳７名
第68号	10月1日	50,000部	全世帯に配布(８ページ)　音声訳４名・点字訳７名
第69号	2月1日	50,000部	全世帯に配布(８ページ)　音声訳４名・点字訳７名

【評価・課題】

八代市の全世帯に向けて社協だよりを発行している。視覚障がい者の方のために、萌の会及び虹の会のご協力により音声訳と点訳による社協だよりを配布している。

（2）社協ホームページ及びSNS等を活用した情報発信

社協組織の概要や事業の予告・報告、福祉、災害義援金の取扱い等に関する情報を随時更新し情報発信に努めた。

（ホームページ） http://www.yatsushiro-shakyo.jp/

（Facebook） https://www.facebook.com/yatsushiroshakyo/

（Twitter） https://twitter.com/yatsu46shakyo

【評価・課題】

令和2年7月豪雨災害にかかる災害ボランティアセンターの開設以降、SNS（FacebookとX・旧Twitter）を積極的に活用している。被災からまもなく5年となるが、引き続き日々の業務やイベント、緊急食料品の寄付のお願いやお礼、ボランティア活動の周知。地域での取り組み等々、一人でも多くの方に社協を感じていただきたく意識的に記事をアップしている。社協だよりの発行は年3回。費用もかからず手軽に更新でき、広く拡散することも可能であるツールを有効活用していきたい。

９．在宅福祉事業の充実強化（介護保険事業等）

高齢者、障がい者の在宅での自立した生活を支援するために下記の事業を行った。

（１）介護保険事業の年間利用者数及び利用実績

①居宅介護支援事業（介護予防プラン受託含む）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	月平均	令和5年度合計	令和５年度月平均
八代支所	（介護）利用者数	86	85	84	82	80	77	86	81	83	78	78	78	978	82	1,170	98
	（介護予防）利用者数	15	14	14	15	16	17	16	16	15	15	14	14	181	15		
泉支所	（介護）利用者数	60	66	71	70	72	69	69	67	67	65	61	62	799	67	857	71
	（介護予防）利用者数	14	16	17	15	15	14	15	17	19	18	17	16	193	16		
合計	利用者数	175	181	186	182	183	177	186	181	184	176	170	170	2,151	179	2,027	169

【評価・課題】

今年度は利用者数の増加に伴い収入額も増加した。収支差額についても昨年度より増加し、今年度も黒字となった。
利用者増加の要因となったのは泉支所の利用者増加によるもの。これに伴い収入も増え収支差額も増額となった。
八代・泉合同での月齢運営会議を開催し、職員間で利用者の受入状況を把握し、バランス良く新規利用者を居受け入れる体制を整えている。併せて、日々の業務効率化のため、各人より意見やアイディアを出し合い、良い所は互いに取り入れながら、煩雑な事務作業が少しでも簡素化できるよう努力している。

②通所介護事業（介護予防含む）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	月平均	令和５年度合計	令和５年度月平均
泉支所（さわやか荘）	利用者数	28	25	26	28	29	26	28	28	28	22	20	22	310	26	310	26
	利用回数	317	288	318	347	314	323	366	365	304	229	217	270	3,658	305	3,707	309
泉支所（ふくじゅ草）	利用者数	14	14	14	15	17	17	14	14	14	11	10	14	168	14	148	12
	利用回数	103	114	102	107	72	104	115	87	76	64	70	78	1,092	91	936	78
合計	利用者数	42	39	40	43	46	43	42	42	42	33	30	36	478	40	458	38
	利用回数	420	402	420	454	386	427	481	452	380	293	287	348	4,750	396	4,643	387

【評価・課題】

令和5年度と比較して、赤字額は大きく減少しているがそれでも赤字が続いている状況にある。さわやか荘の利用者数は横ばいの状態であるが、ふくじゅ草においては5年度に職員体制を充実させ、利用者の受入可能数も増やし、実際に利用者数も昨年の約15%増となった。その分の収入増が赤字を圧縮してことになる。引き続き利用者の増加に努めたい。
泉町は中山間地域であり、利用者のお住まいの地域は拠点のセンターより放射線状に点在している。また、片道30分程度かかる方もおられ、車輌やマンパワーの確保、また燃料代などの送迎コストは平野部と比べると嵩む傾向にあるが致し方ない部分もある。しかしながら、社協が泉町で介護保険サービスを提供することは意味があるとことと考えており、引き続き、工夫し赤字幅を削減しながら事業を展開していきたい。

③総合事業（お達者クラブ）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和5年度合計	令和5年度月平均
泉支所	利用者数	15	18	16	17	16	15	15	15	15	13	10	10	175	15	179	15
（さわやか荘）	利用回数	102	122	98	113	91	106	118	109	79	71	68	71	1,148	96	1,268	106

（2）受託事業の年間利用者数及び利用実績

①あんしん相談センター事業

※地域包括支援センターの協力機関。介護予防サービスの紹介や申請代行、各種福祉サービスの紹介、介護予防教室開催の協力を行っている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和5年度合計	令和5年度月平均
泉支所	実利用者数	7	3	4	3	5	5	4	1	6	6	6	4	54	5	74	6
（相談業務）	延利用件数	7	3	4	3	7	5	4	1	9	6	7	4	60	5	80	7

②介護予防送迎事業

※いきいきサロン、やつしろ元気体操教室などの介護予防事業へ参加する人の利便性を図るため、泉憩の家、五家荘憩いの家、柿迫生きがいセンターへの送迎を行った。今年度は新型コロナの影響もなくなってきたことで、少しずつ送迎の実施日及び利用者数が増えてきた。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	令和5年度合計	令和5年度月平均
泉支所	利用日数	15	14	14	16	13	18	26	27	13	12	12	11	191	16	150	13
	延利用者数	148	136	125	142	95	124	179	205	141	104	98	136	1,633	136	1,056	88

１０．令和2年7月豪雨に対する取り組み

（１）八代市地域支え合いセンター設置運営事業

令和2年7月豪雨における被災者への訪問、電話等により孤立防止等のための見守り支援を行うとともに、早期の生活再建に向けて課題等を的確に把握し各種相談等に包括的に対応するため、住民同士の交流機会の提供、地域社会への参加促進を図った。

（２）事業内容

①会議等の開催、関係機関との連携

会議名	回数	内容等	参加関係機関
連絡会議	毎月 計12回	支援状況を報告するとともに、個別ケースの検討を行い情報共有を図った。困難ケースへのアプローチや今後の支援スケジュールについてを検討している。	県球磨川流域振興課、県地域支え合い支援室、市復興整備課、市健康福祉政策課、市住宅課、市保健センター、住宅支援機構、県地域支え合いセンター支援事業所、第３・第６地域包括支援センター
ミーティング	週１ 計23回	特に気になる世帯や終了案件についての検討を行った。	県支え合いセンター支援事務所

②訪問・相談等

	調査対象世帯数	支援終了世帯数	支援対象世帯数	支援実施回数（延べ回数）						
				合計	訪問	電話	来所	他機関へのつなぎ	文書等	その他
仮設	38	20	18	483	330	46	50	0	0	57
みなし仮設	136	105	31	964	699	98	49	1	0	117
在宅	164	142	22	482	368	61	10	0	1	42
災害公営住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般公営住宅	11	7	4	83	60	22	0	0	0	1
その他	133	119	14	370	270	47	13	1	0	39
合計	482	393	89	2,382	1,727	274	122	2	1	256

仮設住宅等入居者や在宅被災者に相談連絡先を周知し、相談窓口として被災者から相談を受け、情報の提供や関係機関へつないだ。　生活支援相談員が2人1組となり巡回訪問等を行い、見守や声掛けをしていく中で課題が見つかった世帯については連絡会等でケース検討を行い市や関係機関と連携して支援を行った。

③コミュニティーづくりのコーディネート

みんなdeカフェ 市内各地域で生活している方々を一同に会して久しぶりにゆっくりお話をする場の提供を行った ●仮設住宅ありがとうカフェ 仮設住宅の解体前に、仮設住宅に入居していたかたに声かけをしてカフェを開催した。（23名参加） ●みんなdeカフェin本町 がらっぱ広場ではバンドの演奏やギターの弾き語りを聴き、そのあと支え合いセンターでお茶などの提供を行った。（42名参加）
出張カフェ「よんなっせ」 道の駅（80名参加）、合志野（15名参加）、油谷（5名参加）、下片岩（11名参加）、荒瀬（9名参加）、小川（10名参加） さかもと笑顔ウォーク（120名参加）

④ボランティア団体等との連絡調整

建設型仮設住宅が解体される前に、仮設住宅に入居されていた方に声かけをして「仮設住宅ありがとう」と感謝の意を込めてカフェを開催した。 当初からお手伝い頂いているボランティア団体と連携し、昔懐かしいポン菓子や綿菓子、コーヒーなどの提供を行った。
～被災地から被災地へ～手作りの手提げバックが繋ぐプロジェクトを継続して実施した。 石川県輪島からスタートした「このバッグを手にすることで被災された方々が少しでも心が晴れますように。」との思いで作られたバックが被災地・島根県大田市へ届き、そしてこのご縁をお返ししたいと大田市のボランティアが作成した「ひよりぶくろ」が被災後の八代市に届き、被災された方々の手にお渡しをさせていただき大変喜ばれた活動です。 そこで、本市においてもその思いをつなぐ活動にボランティアの方々のご協力をいただき、寄せられた生地となる着物を活用し、ボランティアの手によって作られた「にじのふくろ」をこれまでに福井県南越前町（水害）へ100枚送付しております。現在は活動の発祥地でもある石川県輪島市が被災されたことから350枚送付を目標に日々作成を続けている。

（3）職員の資質向上のための各種会議及び研修会等

センター業務のアドバイザーに必要な助言並びに研修を受けた。（年間4回）
熊本県県球磨川流域復興局によりかさ上げについての説明をしていただき、かさ上げについての理解を深めた。
「ブロック別連絡会議」令和6年10月30日に人吉市地域支え合いセンター、令和7年3月13日に球磨村地域支え合いセンターにて開催。どちらもケース検討をしたり、各支え合い間での情報交換を行った。

【評価・課題】

2名1組のチームで八代市内外の広域に生活する被災者の支援（訪問活動や相談業務）を行ってきた。被災者の方々の抱える課題は心身の不調や孤独感など多用。ニーズを的確に把握するためには具体的な困りごとに踏み込んだ質問をするスキルをあげていく必要がある。

１１．福祉施設利用状況

指定管理者として施設の管理・運営業務を行った。

(１)泉憩いの家

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (泉憩いの家)	利用件数	8	9	5	4	8	9	8	4	4	4	7	6	76
	利用者数	169	412	100	46	119	150	175	39	65	43	93	69	1,480

(２)さわやか荘一般入浴他

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (さわやか荘)	利用者数	86	101	83	109	100	108	107	79	80	87	81	82	1,103

(３)柿迫生きがいセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所 (施設利用)	利用者数	71	73	84	74	48	65	84	77	75	57	78	78	864
泉支所 (入　浴)	利用者数	334	300	307	311	226	285	315	309	255	288	295	350	3,575

(４)高齢者生活支援ハウス事業

※居宅において生活することに不安のある方に対し、一定期間住居を提供し、各種相談及び助言を行なうとともに緊急時の対策を行っている。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
泉支所	利用者数	6	7	7	7	8	8	8	7	9	9	8	7	91
	利用延数	182	217	210	218	247	240	248	222	275	276	224	222	2,781

１２．その他の事業

（１）その他の事業

事業名	日時	会場	対象者数	内容
竹灯籠ワークショップ	8月1日 (木)	坂本地域福祉センター	-	市民の皆さんより頂いた香典返戻寄附金(香典返し)を財源とし、様々な地域福祉事業を実施していることから、社協では長年、8/15に万灯会(旧精霊流し）を実施してきた。 少しでも多くの方に知って頂きたく万灯会当日、会場(桜十字ホールやつしろ)周辺への竹灯籠の飾りつけを企画。日奈久住民自治協議会、坂本校区福祉会の協力により、一般ボランティアと一緒に活動した。
やつしろし万灯会	８月15日 (木)	桜十字ホール やつしろ	1,936人 （初盆供養者）	初盆を迎え、御霊の冥福を祈ると共に、家族の方々の一日も早い悲しみからの立ち直りと繁栄を願い開催。八代市仏教会との共催。その他、万灯組み立てにはボーイスカウト、若者サポートステーションやつしろのご協力を頂いた。
ひとり金婚者祝い事業	2月8日 (土)	桜十字ホール やつしろ	9人	結婚５０年を迎え、配偶者に先立たれながらも、子育てやご家族のためにご尽力された方へふれあいフェスタ式典時に記念品を贈呈した

【評価・課題】

以前実施していた精霊流しは、河川の環境問題等を考慮し２年度より万灯・精霊舟を川に流さない形の「万灯会」に移行。本年度は式典会場を市民ホールに移し、多くの来場者を迎えることができた。また、多目的ホールでは竹灯籠や紙灯籠の展示を行い、併せて多くの来場があった。竹あかりには新しく金剛校区敷川内有志会の皆様にも作品の展示を依頼した。試行錯誤しながら次年度以降良いものにしていきたい。

（2）日本赤十字社事業

①活動資金募集実績

標準目標額	実績額
13,493,000円	12,606,640円

【評価・課題】
婦人会や市政協力員の会議等に伺って改めて日赤事業の説明をしたものの、実績額は目標を下回ってしまった。5月の活動強化月間には福祉会の総会や、個別依頼を受けて町内の会議等へも説明のために訪問しており、引き続き今後も活動資金募集への理解を深めてもらえるよう努める。

②災害救援物資配布事業

台風災害及び一般住宅火災被災世帯への救援物資の配布

区分	全焼	半焼	全壊	半壊	半壊	半壊	床上浸水	※部分焼
件数	7件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	5件

※部分焼については、原則配付対象外であるが、物資の配布が必要と判断される場合は配付を行う。

【評価・課題】
被災者に関する情報が得にくくなったため、市政協力員や日赤奉仕団（婦人会）、行政と連携しながら個々のケースに応じて救援物資を配布した。

③救援金・義援金募集実績（令和7年3月末実績）

継続中	ウクライナ人道危機救援金(累計) R4.3.2～	902,718円
継続中	レバノン人道危機救援金（累計）R6.10.15～	3,000円
終了	2024年台湾東部沖地震義援金（累計）R6.4.5～R6.6.28	1,537,109円
継続中	令和６年能登半島地震災害義援金(累計) R6.1.4～	6,125,278円
継続中	令和６年9月能登半島大雨災害義援金(累計)R6.9.25～	440,217円
継続中	令和７年大船渡市赤崎町林野火災義援金(累計)R7.3.6～	26,920円

④赤十字研修会・講習会

被災時における被災者支援活動を円滑に進めるため日赤県支部の協力を得て八代市地域赤十字奉仕団(婦人会)では救急法などの講習を受けた。
７ヵ所（代陽校区、八代校区、麦島校区、松高校区、郡築校区、日奈久校区、千丁校区）

（3）共同募金事業

①募金実績額

目標額	実績額
22,226,000円	15,992,984円

②内　訳

区　　分	金　額(円)
街頭募金	67,903
戸別募金	13,323,440
法人募金	1,085,410
個人募金	106,781
学校募金	28,241
職域募金	1,134,493
その他の募金	246,601
預金利息	115
計	15,992,984

③令和６年度配分金事業内訳

事業名
長寿者慶祝事業
児童遊具補修事業
福祉育成・援助活動事業
ふれあいフェスタ
地域福祉活動計画策定事業
社協だより発行事業
ボランティアセンター運営事業
お茶飲みサロン推進事業

【評価・課題】
ふせんブックや蛍光ペンセットなど新たな促進グッズを採用したところ、新グッズに対しては予想を超える伸びがあったものの、全体的に前年に比べ募金額は減少した。戸別募金については校区によって目標額に対する募金実績の差が大きく、引き続き、使い道も含めて市民の皆様にご理解いただけるよう、周知・説明していきたい。また企業・団体の皆様に、赤い羽根寄付付き自動販売機の設置による、地域社会への貢献について理解を求めていきたい。

（４）視察、研修の受入・講師派遣状況

①視察研修受入等　県内外の社協等の研修を受け入れ、互いの活動状況について意見交換を行った。

	視察者等	期　日	人数	内　容
1	宮崎県内市町村社協職員(災害ボランティアセンター担当職員)	7/4～9/5	10名	【(宮崎県社会福祉協議会) 災害支援リーダー育成事業 被災地視察研修会】 テーマは行政・団体・社協との連携協働。令和２年７月豪雨時の八代市災害VCにおいて計30回開催した坂本町支援活動団体連絡会議における情報共有・ニーズやマンパワー等のシェアの状況、また八代市とも3回の意見交換会により仮置き場への搬入時間の延長や入場許可証の発行など復旧活動がしやすい環境整備も話し合いにより実現したことなどを紹介。復旧支援団体を代表して球磨川アドベンチャーズやつしろ様にも参加頂いた。 （地域福祉係　松山　本明）
2	熊本県社協主催 市町村社会福祉協議会新任職員研修会	9/11～9/12	29人	市町村社協新任職員が、業務遂行に必要な知識を習得するとともに、市町村社協職員が取り組む地域福祉活動について学ぶことで、社協職員としての資質の向上を図ること及び市町村社協の連携を図るために、本研修会を通して社協職員同士のネットワークの構築を図るために開催。 本会の事業や広報、生活支援体制整備事業、地域支え合いセンター等の研修を実施。（氏原地域福祉課長、地域福祉係：松山・山北）
3	宮崎県都城市五十市地区社会福祉協議会	11/28	7名	【坂本校区福祉会への視察研修】 令和2年7月豪雨にかかる坂本町の被災状況。被災後における活動についての意見交換。社協からは災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動状況等について発表した。（地域福祉係　松山）

②講師派遣等

	派遣先等（会場）	期　日	人数	内　容
1	上天草市社会福祉協議会 （大矢野中学校）	9/1(日)	約50名	【R6年度災害ボランティアセンター「運営協力員」養成講座】 災害ボランティアセンターの運営に興味のある地域住民へ向けて、災害ボランティアセンターとは？災害ボランティアセンターの三原則とは？令和２年７月豪雨における八代市災害VCの状況等について報告。設置訓練後の講評なども担当した。※(熊本県社協)市町村災害ボランティアセンター設置･運営アドバイザー派遣事業 （地域福祉係　松山）

2	八代市ボランティア連絡協議会	9/29（日）	約30名	【災害ボランティア研修会】 頻発する自然災害に備え災害や災害ボランティアの学びを深めるため研修会を八代市ボランティア連絡協議会との共催にて実施。第１部では、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク樋口様より中間支援組織の研修、第2部では、社協より能登半島地震職員派遣の報告や被災者支援についての研修を担当。 （地域福祉係：山北）
3	八代市民生委員児童委員全体研修会 （桜十字ホールやつしろ）	10/29（火）	約250名	災害関係及び能登半島地震職員派遣報告を併せて実施。 （地域福祉係：山北）
4	代陽校区民生委員児童委員協議会	11/6（水）	17名	校区民児協研修にて、防災研修を担当 （地域福祉係：山北）
5	八代地域医療介護多職種連携研修会 （第9期実践編）	11/9（土）	69名	八代地域在宅医療介護連携支援センター主催で行われ、生活支援体制整備事業及び八代市生活支援コーディネーター事業についての研修を担当 （地域福祉係：山北）
6	第4包括圏域民生委員・居宅介護支援事業所等合同研修会	11/27(水)	32名	八代市第4地域包括支援センター主催で開催。 社協より災害及び被災者支援について研修を担当 （地域福祉係：山北）
7	球磨村支え合いの地域づくり研修会	2/15（土）	約30名	球磨村・球磨村社会福祉協議会主催で行われ、八代市社協より生活支援体制整備事業及び八代市生活支援コーディネーター事業の研修を担当 （地域福祉係：山北）

【評価・課題】
坂本町を中心に甚大な被害をもたらした令和2年７月豪雨よりまもなく５年が経過。八代市災害ボランティアセンター及び八代市地域支え合いセンターの運営を経験したことについて、お話させていただく機会を多く頂いた。５年前は各地より支援を頂いておりその恩返しができればの思いで対応している。

13. 校区福祉推進協議会事業報告

地域概要：令和7年３月31日現在

行政区	333 区
人口	119,250 人
世帯数	58,065 世帯
高齢化率	35.4 %
65歳以上人口	42,193 人
平均年齢	50.5 歳
市社協補助金	9,538,240 円
ネットワーク数（対象者数）	3,630 件
ふれあい委員数	1,616 人
サロン設置数	221 ヶ所

※令和6年度事業内容

＜共通事業＞　1．ふれあい委員活動の充実　2．広報紙の発行　3．いきいきサロンの支援　4．福祉座談会の開催

＜重点推進事業＞　1．認知症を理解する研修会の開催　2．いきいきサロン新規参加者の拡大

代陽校区福祉推進協議会

設立：平成7年8月21日

地域概要

行政区	25 地区
人　口	7,393 人
世帯数	3,904 世帯
高齢化率	32.8 %
65歳以上人口	2,422 人
平均年齢	49.8 歳
市社協補助金	687,100 円
ネットワーク数	337 人
ふれあい委員数	114 人
サロン設置数	8 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会・連絡会議
- グループワーク（台帳整理、情報交換）
- 福祉座談会

2　広報紙の発行　（年1回）

3　いきいきサロン事業の拡充
- サロンサポーター研修会
- サロン設置と参加者の拡大
- 助成金交付

独自事業等

4　町内親子グランドゴルフ大会（参加者90名）

5　大人の料理教室

八代校区福祉推進協議会

設立：平成5年12月14日

地域概要

行政区	13 地区
人　口	4,765 人
世帯数	2,584 世帯
高齢化率	35.9 %
65歳以上人口	1,713 人
平均年齢	51.5 歳
市社協補助金	427,760 円
ネットワーク数	119 人
ふれあい委員数	48 人
サロン設置数	6 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員情報交換会及び研修会
- 見守り対象者の見直し
- 福祉座談会
- 福祉会研修（構成団体の役員研修）（未実施）

2　広報誌の発行（年1回）※自治会便りに掲載

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- いきいきサロン担当者研修会（1回）

独自事業等

4　友愛訪問(75歳以上独り暮らし・ティッシュ配付)

5　花いっぱい運動（民児協との共同）

6　独居老人への年賀はがき送付(八代小100名分)

7　災害時料理教室(ヘルスメイトによる料理講習会)(未実施)

8　世代間交流会

9　八代コミセンで花見（婦人会、民生委員の協力）

太田郷校区福祉推進協議会

設立：平成6年12月21日

地域概要

行政区	31 地区
人　口	14,845 人
世帯数	7,270 世帯
高齢化率	31.0 %
65歳以上人口	4,600 人
平均年齢	48.1 歳
市社協補助金	1,050,740 円
ネットワーク数	471 人
ふれあい委員数	165 人
サロン設置数	20 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員連絡会議　福祉座談会
- 活動説明、台帳整備

2　広報紙の発行（年1回）編集会議3回

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- サロンサポーター研修会

独自事業等

4　ふれあい交流会（各町内）

5　年末友愛訪問（見舞品贈呈）
- 75歳以上一人暮らし　・65歳以上寝たきり
（※対象者は民生委員に調査依頼）

6　男の料理教室

植柳校区福祉推進協議会

設立：平成7年3月6日

地域概要

行政区	6 地区
人　口	4,329 人
世帯数	2,092 世帯
高齢化率	37.8 %
65歳以上人口	1,637 人
平均年齢	51.5 歳
市社協補助金	367,700 円
ネットワーク数	84 人
ふれあい委員数	75 人
サロン設置数	6 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
  関係資料と粗品の配布
- 福祉座談会（町内役員を交え意見交換会）
  高齢者への声掛け・見守り活動

2　広報紙の発行（年1回）

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修会
- 助成金交付
- 各町内サポーター会議

独自事業等

4　敬老会（式典に代わり各町内で開催し祝品配布）

5　植柳ふれあい祭り・盆踊り

6　夏休みの子どもの家（学習会・遊び・昼食）

7　冬休みの子どもの家（学習会・遊び・昼食）
（小倉百人一首カルタ・読み聞かせ・ぜんざい会）

8　シルバーピンポン（毎週月曜）（休止中）

9　異世代間交流（各町内、年1回）

麦島校区福祉推進協議会

設立：平成7年8月18日

地域概要

行政区	13 地区
人　口	7,180 人
世帯数	3,514 世帯
高齢化率	36.1 %
65歳以上人口	2,590 人
平均年齢	50.9 歳
市社協補助金	560,960 円
ネットワーク数	235 人
ふれあい委員数	67 人
サロン設置数	12 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員連絡会（見守り対象者名簿見直し）
- ふれあい委員研修会
- 役員研修会
- 福祉座談会

2　広報紙の発行（年1回　3月）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- いきいきサロンサポーター研修会
- いきいきサロン大会（オープニング出場）

独自事業等

5　役員研修（施設訪問）（未実施）

6　友愛訪問（75歳以上独居ティッシュ、ごみ袋配布）

7　世代間交流事業（各町内）
（どんどや、世代対抗ゲーム大会。ウォーキング、音楽鑑賞）

8　校区夏祭り

松高校区福祉推進協議会

設立：平成7年8月28日

地域概要

行政区	13 地区
人　口	12,536 人
世帯数	5,883 世帯
高齢化率	30.1 %
65歳以上人口	3,776 人
平均年齢	47.5 歳
市社協補助金	918,300 円
ネットワーク数	226 人
ふれあい委員数	112 人
サロン設置数	11 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
- ふれあい委員連絡会（町内）

2　福祉座談会

3　広報紙の発行（年12回※まち協だよりに記載）

4　いきいきサロンの支援
- 助成金交付・実施日を町内誌でPR

5　サロンサポーター活動の充実
- サロンサポーター研修会

独自事業等

6　世代間交流事業
- 松高「ふれあい夏まつり」

7　校区歩け歩け大会

8　敬老会(式典は中止し祝品の配布を行った)

9　ふれあい交流会（独居高齢者）

八千把校区福祉推進協議会

設立：平成5年9月20日

地域概要

行政区	16 地区
人　口	14,501 人
世帯数	7,030 世帯
高齢化率	29.2 %
65歳以上人口	4,232 人
平均年齢	47.1 歳
市社協補助金	895,620 円
ネットワーク数	249 人
ふれあい委員数	103 人
サロン設置数	16 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- 民生委員と合同研修
  ネットワーク台帳作成・整理、講話、福祉座談会
- ふれあい委員研修会
  ふれあい委員活動について
  認知症について

2　広報紙の発行（年2回）

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修会
- 助成金交付
- 四中生交流サロン（年1回）
- 校区いきいきサロンの集い

独自事業等

4　男性の料理教室（年2回　9月・2月）

5　大やちわ祭り（世代間交流）
- 発表会・コンサート

6　各種団体の交流
（民児協、老人クラブ、更生保護女性の会）

高田校区福祉推進協議会

設立：平成7年3月1日

地域概要

行政区	10 地区
人　口	7,986 人
世帯数	4,055 世帯
高齢化率	37.1 %
65歳以上人口	2,963 人
平均年齢	51.7 歳
市社協補助金	556,200 円
ネットワーク数	182 人
ふれあい委員数	66 人
サロン設置数	10 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
  活動について・活動発表・対象者及び担当の確認
- ひとり暮らし高齢者との交流会

2　広報紙の発行（年5回※6年度は3回発行）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- サロンサポーター研修会
- いきいきサロン大会(休止中)

4　町内福祉座談会

独自事業等

5　男性の料理教室（年1、1回）

6　一人暮らし高齢者年賀状友愛活動（77歳以上）
高田小1,2年生に依頼（対象120名）

金剛校区福祉推進協議会

設立：平成4年12月11日

地域概要

行政区	12 地区
人　口	5,123 人
世帯数	2,316 世帯
高齢化率	39.4 %
65歳以上人口	2,016 人
平均年齢	52.7 歳
市社協補助金	392,460 円
ネットワーク数	114 人
ふれあい委員数	53 人
サロン設置数	14 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会（坂本地区の福祉会の取り組み
  ふれあい委員活動。対象者確認、生活支援コーディネーター申請）
- 役員研修会
  地域づくりと健康、防災(避難所について)

2　広報紙の発行（年2回　7月・1月）

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修（未実施）
- 助成金交付

独自事業等

4　友愛訪問事業（75歳独居者に粗品プレゼント）

5　敬老の日式典

6　福祉交流グランドゴルフ大会

7　いきいきふれあい祭り・いきいきサロン大会

8　見守り活動

郡築校区福祉推進協議会

設立：平成5年12月15日

地域概要

行政区	13 地区
人　口	4,859 人
世帯数	2,653 世帯
高齢化率	30.7 %
65歳以上人口	1,490 人
平均年齢	47.4 歳
市社協補助金	306,520 円
ネットワーク数	69 人
ふれあい委員数	66 人
サロン設置数	7 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員連絡会議（年2回）
  ふれあい委員名簿、見守り対象者名簿の整理
  福祉座談会

2　広報紙の発行（年1回）（未発行）

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修
- 助成金交付

独自事業等

4　ふれあい福祉年賀状
- 一人暮らしの高齢者へ小学生から年賀状

5　救急法訓練（婦人会共催）

6　男性料理教室（婦人会共催）（未実施）

7　炊き出し訓練（婦人会共催）

8　ふれあいグラウンドゴルフ大会（まち協共催）

宮地地区福祉推進協議会

設立：平成６年１１月１８日

地域概要

行政区	6 地区
人　口	3,003 人
世 帯 数	1,454 世帯
高齢化率	40.4 %
６５歳以上人口	1,213 人
平均年齢	53.1 歳
市社協補助金	351,140 円
ネットワーク数	170 人
ふれあい委員数	49 人
サロン設置数	8 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
- ふれあい委員活動報告会（月１）
- 民児協・福祉会役員研修

2　広報紙の発行（年１回）

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修
- 社協からのアドバイス及び各専門分野の方に伝授

独自事業等

4　ふれあいハガキと友愛訪問
5　歩け歩け大会
6　どんどや
7　子供たち（宮地小）へのプレゼント
8　宮地小給食ふれあい会（74歳以上）

日奈久校区福祉推進協議会

設立：平成５年１２月８日

地域概要

行政区	15 地区
人　口	2,224 人
世 帯 数	1,234 世帯
高齢化率	56.9 %
６５歳以上人口	1,265 人
平均年齢	62.1 歳
市社協補助金	278,320 円
ネットワーク数	130 人
ふれあい委員数	75 人
サロン設置数	13 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
- ふれあい委員研修会
- 福祉座談会（お互い様の日対象者を検討）(未実施)

2　広報紙の発行（校区新聞掲載）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- サロンサポーター研修会(未実施)

独自事業等

4　日奈久校区いきいきサロンの集い（未実施）
- 各町内サロンより演芸発表(未実施)

5　施設行事への協力
- 保寿寮「どんどや火祭り」

6　「お互いさまの日」
各6町内(窓ふき、除草、剪定、ゴミ出し等)支援

7　人権研修会

昭和校区福祉会

設立：平成４年１１月４日

地域概要

行政区	3 地区
人　口	1,239 人
世 帯 数	621 世帯
高齢化率	29.5 %
６５歳以上人口	366 人
平均年齢	47.0 歳
市社協補助金	186,900 円
ネットワーク数	19 人
ふれあい委員数	14 人
サロン設置数	7 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会(ふれあい委員・民生委員等)

2　広報紙の発行（１回）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- いきいきサロンサポーター研修会

4　福祉座談会

独自事業等

5　役員研修会
6　敬老会・文化祭

二見校区福祉推進協議会

設立：平成７年１１月８日

地域概要

行政区	10 地区
人　口	1,322 人
世 帯 数	738 世帯
高齢化率	57.1 %
６５歳以上人口	755 人
平均年齢	63.1 歳
市社協補助金	218,120 円
ネットワーク数	91 人
ふれあい委員数	36 人
サロン設置数	12 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会（2回）
  先進地研修(熊本市大和地区社協(植木町))
  有償ボランティア活動について
- 福祉座談会(ふれあい委員研修会時→中止)

2　広報紙の発行（年２回　７月・12月）

3　いきいきサロンへの支援
- いきいきサロンサポーター研修会
- 助成金交付

独自事業等

4　二見フードフェスタ（啓発パネル、地域交流）
5　敬老会（まち協と共催）
　→記念品としおりを配付
6　グラウンドゴルフ大会(小中学校との交流含む)
　年３回（６月、１０月、２月）→６年度は９月に1回
　来年度は体協・PTAと共催予定
7　一人暮らし老人宅訪問
- ７５歳以上の高齢者、タオル配付、生活状況伺い

8　地域交流ウォーキング大会
9　料理教室（みんなの食堂）

龍峯校区福祉推進協議会

設立：平成７年１０月５日

地域概要

行政区	6 地区
人　口	1,468 人
世 帯 数	654 世帯
高齢化率	46.8 %
６５歳以上人口	687 人
平均年齢	56.5 歳
市社協補助金	219,380 円
ネットワーク数	46 人
ふれあい委員数	15 人
サロン設置数	6 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修
- 見守り対象者基本台帳の整備（町内単位で実施）

2　広報誌の発行（福祉龍峯）

3　いきいきサロンの支援
- 各サロンの活動状況の把握
- 助成金交付
- サロンサポーター研修会

4　福祉研修会（座談会含む）

独自事業等

5　男性の料理教室（年１回）(調理室が使用できないため中止)
6　世代間交流　ふれあい藤棚給食会（小学生のみで実施）
7　校区敬老会（共催）
- 式典は中止　対象者へは記念品を配布

8　ひとり暮らし高齢者のつどい（各町内）
　対象者宅へ訪問し、記念品を配布（集いは中止）
9　世代間交流事業（グランドゴルフ）

坂本校区福祉推進協議会

設立：平成２０年３月２６日

地域概要

行政区	27 地区
人　口	2,285 人
世 帯 数	1,286 世帯
高齢化率	66.7 %
６５歳以上人口	1,523 人
平均年齢	67.8 歳
市社協補助金	298,060 円
ネットワーク数	345 人
ふれあい委員数	144 人
サロン設置数	19 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ブロック別研修及び連絡会議(2地区×4回)
  研修：被災＆コロナ禍における見守り活動等
  連絡会議：見守り対象者の見直し、意見交換

2　広報紙の発行（年２回）
関係者名簿の掲載(ふれあい委員・市政協・自治会長・民生委員)

3　いきいきサロンの支援
- サロンサポーター研修会(クレオン1000円パック)
  助成金(新規5,000円、500円/回)

独自事業等

4　高齢者交流会（70歳以上）
　ふれあい交流会（※坂本中文化祭と共同開催）
　一人でも多くの方に生徒の成果物や発表を見て聞いて欲しいとの校長先生の依頼により実現。
　(※独居だけでなく夫婦世帯も可)
5　ふれあい委員先進地研修(えびの市社協)
6　都城市五十市地区社協　先進地研修 受入

千丁校区福祉推進協議会

設立：平成１９年３月１５日

地域概要

行政区	16 地区
人　口	7,254 人
世 帯 数	3,023 世帯
高齢化率	31.1 %
６５歳以上人口	2,254 人
平均年齢	47.6 歳
市社協補助金	526,940 円
ネットワーク数	115 人
ふれあい委員数	71 人
サロン設置数	12 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
- 対象者の選定・情報交換：各地区において実施
- 地区別一人暮らし高齢者・見守り対象者交流会

2　広報紙の発行（まち協との合同発行：年3回）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付　　・サロンサポーター研修会

4　福祉座談会

独自事業等

5　男性の料理教室（災害備蓄食の配布）
6　わくわく親子料理教室（食育料理を配布）
7　福祉のつどい
- 講演、いきいきサロン・地区からの出し物

8　年賀状交流事業(７５歳超独居者等、子供会協力)
9　各地区別一人暮らし高齢者・見守り対象者交流会
- 講話、ゲーム、情報交換会、会食懇談

10　プラチナネットワークの推進
- 市政協力員、民生委員会等で事業説明
- ケア会議の開催（2カ月毎6回開催）
- 情報交換

鏡地域福祉推進協議会

設立：平成２０年３月２８日

地域概要

行政区	25 地区
人　口	13,786 人
世 帯 数	6,256 世帯
高齢化率	36.0 %
６５歳以上人口	4,960 人
平均年齢	50.6 歳
市社協補助金	811,480 円
ネットワーク数	404 人
ふれあい委員数	212 人
サロン設置数	13 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員連絡会議
  事業説明、台帳整備、福祉座談会

2　広報紙の発行（年１回）

3　いきいきサロンの支援
- 助成金交付
- サポーター研修会
- レクリエーション講習会

独自事業等

4　福祉グラウンドゴルフ大会
5　一人暮らし高齢者新春カードプレゼント（1月開催）
　アトラクション鑑賞、小学生との交流、合同給食会
　→集いは中止となったが、
　　その代わりに小学生（高学年）に新春カードの作成を依頼し、一人暮らしの高齢者の方へ配布した。
6　福祉団体スポーツ大会・ニュースポーツ大会
7　見守りウォーキング事業(+認知症に関する研修会)
8　敬老会（主管）
　　対象者にはメッセージ・記念品を贈呈した。
10　泉合タクシー利用促進事業　愛称募集(→どんかっちょに決定)
　タクシー用マグネット、カレンダー作成配付、ベンチ作成依頼等

東陽校区福祉推進協議会

設立：平成２０年３月２８日

地域概要

行政区	25 地区
人　口	1,760 人
世 帯 数	797 世帯
高齢化率	51.0 %
６５歳以上人口	897 人
平均年齢	59.5 歳
市社協補助金	249,340 円
ネットワーク数	105 人
ふれあい委員数	58 人
サロン設置数	7 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会、事業説明
  台帳整備（5地区に分けて少人数で時間別に開催）
- 役員・ふれあい委員視察研修

2　広報紙の発行（年１回）

3　いきいきサロンの支援
- 校区サポーター研修会

4　地区別見守り組織推進座談会
　（福祉座談会と同時開催）

独自事業等

5　ひとり暮らし高齢者のつどい(70歳以上)
- コロナの影響により生活用品を配布した。

6　認知症サポーター養成講座

泉校区福祉推進協議会

設立：平成２０年３月２８日

地域概要

行政区	48 地区
人　口	1,392 人
世 帯 数	701 世帯
高齢化率	59.9 %
６５歳以上人口	834 人
平均年齢	64.3 歳
市社協補助金	235,200 円
ネットワーク数	119 人
ふれあい委員数	73 人
サロン設置数	14 ヶ所

共通事業

1　ふれあい委員活動の充実
- ふれあい委員研修会
  見守り対象者台帳の整理等

2　広報紙の発行

3　いきいきサロンへの支援
- サロンサポーター研修会
- 新規開設したところへ準備金（10,000円）支給

4　地区別福祉座談会（五家荘は台風のため中止）
　地域の困りごとを各地区で話し合い

独自事業等

5　料理教室（未実施）
6　ひとり暮らし高齢者の見守り訪問（70歳以上）
- 粗品を配布した。

令和６年度　事業報告付属明細書

社会福祉法施行規則第２条の 25 第３項に定めのある事業報告の付属明細書には、記載すべき
「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

社会福祉法人人八代市社会福祉協議会